

第 131 回 学長定例記者会見

日時：令和3年3月26日（金）11：00～11：30

場所：広島大学 霞キャンパス 臨床管理棟3階 大会議室

※ テレビ会議システムによる配信は行わない

※ YouTube による録画配信を実施

【発表事項】

1. 文部科学省「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」に本学の2件がそろって採択されました
2. 霞地区に新たな共同研究講座と寄附講座を設置します（2021年4月）
 - （1）大学院医系科学研究科に共同研究講座「医療イノベーション講座」を設置
 - （2）大学病院に3つの寄附講座を設置
3. 認定遺伝カウンセラーの養成コースを大学院医系科学研究科に設置します（2021年4月）
4. 【2020年度資料展示】広島大学 原医研の60年：所蔵資料から見る原爆放射線医科学研究所の歩み（2021年3月26日～4月16日）

【お知らせ事項】

1. 広島大学「平和研究イニシアティブ」第1回「広島大学人社系センター合同セミナー」（オンライン）を開催します
2. 広島大学体育会45団体の特徴を反映したマスコットキャラクター「ひろティー」のバリエーションデザインを制作しました

※ 発表事項4に関連して、「広島大学 原医研 60年」資料展示の見学希望がある場合には、定例会見後にご案内します。

■ 次回の学長定例記者会見（予定）

日時： 令和3年4月下旬

場所： 広島大学 東広島キャンパス

令和 3 年 3 月 26 日

文部科学省「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」に本学の 2 件がそろって採択されました。

文部科学省が公募した「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」に本学から申請した 2 件が、令和 3 年 3 月 11 日付でそろって採択されました。

同プランは、大学・高等専門学校においてデジタル技術を積極的に取り入れ、「学修者本位の教育の実現」、「学びの質の向上」に資するための取組における環境を整備し、ポストコロナ時代の高等教育における教育手法の具体化を図り、その成果の普及を図ることを目的としています。

本学は、取組①「学修者本位の教育の実現」(1 件 1 億円程度)に「次世代オンライン教育を実現する『バーチャルクラスルームデジタルラーニング(VCDL)』環境の構築」を、取組②「学びの質の向上」(1 件 3 億円程度)に、「DX で拓く学びのパラダイムシフト～ニューノーマルの新たな教育実現に向けた『バーチャルクラスルームデジタルラーニング(VCDL)』環境の構築～」をそれぞれ申請し、そろって採択されました。

大学における情報通信技術（以下、ICT）は、今般の普及を背景に、可能なものすべてがデジタル化されることを前提として、教育・研究形態そのものを変革し新たな価値を創造するデジタルトランスフォーメーション（Digital Transformation, 以下、DX）の段階に入ろうとしています。本学では、10 年後の情報環境及びデジタル技術を活用した教育・研究・支援業務等のあり方を見据えて、「広島大学 DX 推進基本計画（以下、基本計画）」を令和 3 年 1 月に策定し、基本計画中では「教育・学習データの活用と教育コンテンツのデジタル化」を掲げています。

本申請事業では、

取組①において、コロナ対策のためオンライン授業の増加などにより教育のデジタル化が拡大し、様々な学習データが蓄積されつつある中、これらを学習者へ効果的にフィードバックすることや教育方法の改善に結び付けるため、

- 1) 学習支援システム（LMS）の再構築と学習記録の利活用
 - 2) 教育・学習データ管理ポリシーと利活用ポリシーの策定
 - 3) 本学以外でも活用可能な質の高い教育用動画コンテンツの作成
 - 4) 支援組織である情報メディア教育研究センターの機能強化
- に取り組みます。

取組②において、VR（Virtual Reality）を活用した教材などデジタル化の特徴を活かした優れた教育コンテンツを作成し、学内外での活用も目指し、これまでの大学教育の形態を抜本的に見直すため、

- 1) デジタル教材の開発
 - 2) 学内外での連携による開発と普及
 - 3) サステイナブルな学習環境の構築
- に取り組みます。

これらの取組によって、授業はキャンパス内のみで行うというこれまでの常識を超えたユニバーサルな“次世代オンライン教育”を実現する「バーチャルクラスルームデジタルラーニング(VCDL)」環境を構築します。

同プランには、国公私立大学、私立短大、国立高専から合わせて 252 件(取組①174 件、取組②78 件)の申請があり、うち 54 件(取組①44 件、取組②10 件)が採択されました。取組①、②ともに採択されたのは 9 大学・機構、国立では広島大学をはじめ北海道大学、東海国立大学機構、神戸大学、山口大学、九州大学、熊本大学の計 7 大学・機構です。

【お問い合わせ先】

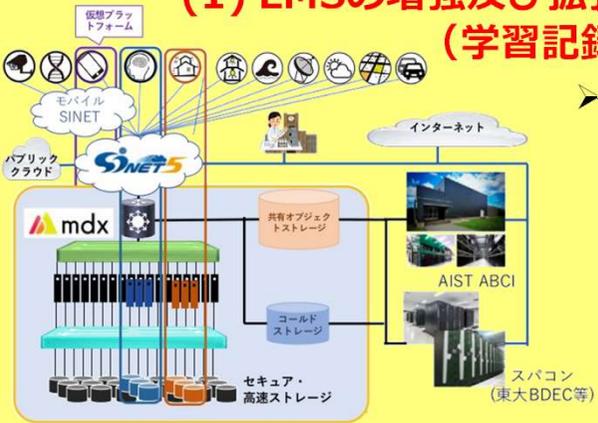
教育室教育部教育支援グループ グループリーダー 角田 明 Tel : 082-424-6151 E-mail : kyoiku-gl@office.hiroshima-u.ac.jp
--

次世代オンライン教育を実現する「バーチャルクラスルームデジタルラーニング(VCDL)」環境の構築

中国四国地区の教育ハブとなり、地域と世界を繋ぐ広島大学DX-グローバルキャンパスの構築を目指す

- 自大学の教育コンテンツの共有化と反転授業などを活用した、大学間連携による効率化と多様化の継続的発展
- 世界展開：グローバルキャンパスの構築
- 地区大学がハブとなり、DX (Digital Transformation) を推進する

(1) LMSの増強及び拡張 (学習記録の利活用)



- 匿名・非識別加工情報による全国規模でのデータ分析
- ✓ 教育コンテンツや教授方法の飛躍的な向上

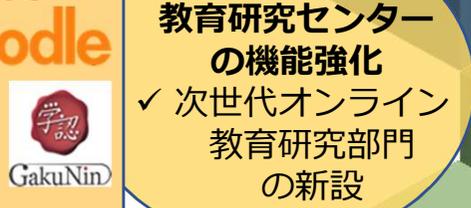
利用可能な資源の有効活用

(2) 教育・学習データ利活用ポリシー等の策定

- 教育のデジタル化を踏まえた学習データの利活用に関する提言 (日本学術会議) に沿った整備
 - ✓ 学習者の多面的なデータを分析し、エビデンスに基づく教育の実現
 - ✓ 個々の学習データを学習者自身が振り返り記録として閲覧、個人情報に配慮し、学習データを分析し授業改善などに利用することで教育の質を向上
 - ・ 学習データ (個人レベル、機関レベル) の教育改善のための利用
 - ・ 学習データを収集・利活用するための制度設計
 - ・ 学習データを収集・利活用するための情報環境の整備
 - ・ 学習データを収集・利活用するための人材の育成

(1) LMSの増強及び拡張 (システム構築)

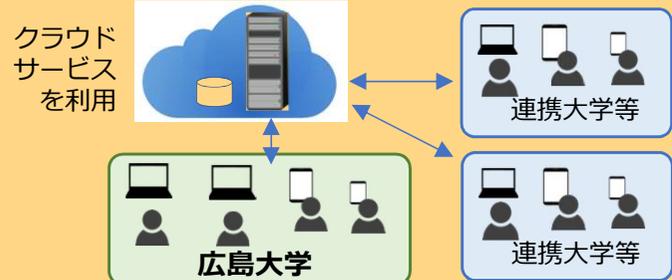
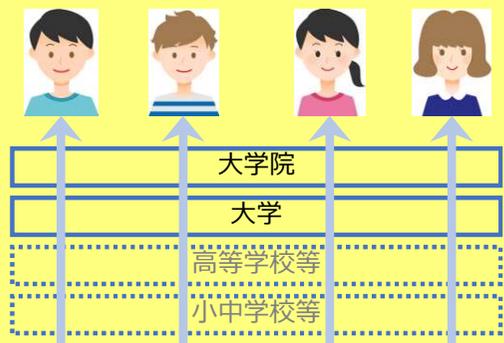
- 学習支援システム (LMS : Learning Management System) の更新
- 「GakuNin (学術認証フェデレーション)」による認証連携



- ✓ オープンソースソフトウェアの活用により、利用者数に依存しない、スケーラブルで持続可能な教育・学習支援環境の構築
- ✓ 対象者：「GakuNin」参加大学の構成員

情報メディア教育研究センターの機能強化

- ✓ 次世代オンライン教育研究部門の新設

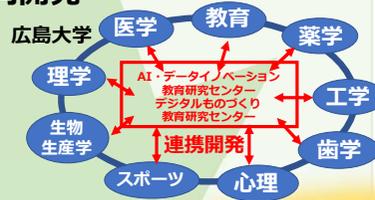


(3) 質の高い教育用動画コンテンツの作成



申請取組2) 繋がって創る：学内外での連携による開発

- AI・データイノベーション教育研究センターとデジタルものづくり教育研究センターを中心とした学内での効率的な共同開発
 - ・各学部と協働でデジタル教材を開発する体制を構築し、効率的・効果的な教材の開発
- LMSの増強・拡張によるシステムの構築
- 連携大学との共同開発
 - ・連携大学が共同でデジタル教材の開発体制を構築
- 地域教育組織との共同開発
 - ・初等中等教育機関と連携してデジタル教材を開発
- 教育の評価方法の確立
 - ・デジタル教材の使用前後での到達度の変化を定量的に測定し、教育を改善



申請取組2) 繋げて広げる：学内外での連携による普及

- 連携大学へのデジタル教材の提供と改善
 - ・複数の大学で課題を抽出し改善を図る
- 連携大学が県内初等中等学校へのデジタル教材の提供と指導者の育成・派遣
 - ・開発したデジタル教材を用い各連携大学が自県内初等中等学校との接続を促進



広島大学で開発し、連携大等で活用・改善

効果的・効率的な開発

効果的・効率的な普及

DX推進計画

ニューノーマルでの新たな教育の実現

「バーチャルクラスルームデジタルラーニング(VCDL)」環境

スピード感を持った危機対応

新しい学修の展開

DX推進体制の強化

- 情報メディア教育研究センター
 - ・情報環境の整備
 - ・DXの技術的支援
- 教育学習支援センターの機能強化
 - ・デジタル教材の開発方針の作成
 - ・教育IRの推進
 - ・国内外の大学・高校との授業連携を強化
- アクセシビリティセンター
 - ・障害のある学生への対応強化
- 財務・総務室情報部
 - ・情報環境の整備による教育支援活動の強化



デジタル教材の開発

- 【実験・実習・演習】
- 第1次開発 (令和3年)
 - ・ 内視鏡手術・介入治療のトレーニングシステム
 - 概要：シミュレーターとDXを活用し、病院外にながらリアルタイムで学習が可能な実践的トレーニングシステム (「臨床実習入門プログラム(4年)」「臨床実習I・II(5、6年)」他)
 - ・ 動植物(農場圃場)や食品(工場)での実習システム
 - 概要：共同利用農場や共同利用船豊潮丸での実習を実施者目線でVR体験する教材 (「酪農フィールド科学演習(3年)」「臨海生物生産学実習(3年)」他)

特別支援教育指導者育成のためのトレーニングシステム

概要：VRを活用し、点字や歩行、手話学習、発達検査等を特別支援学校以外で学習可能なシステム (「特別支援学校教育実習入門(1年)」「特別支援学校教育実習(3年)」他)

第2次開発 (令和3年～)

- ・ 「医療従事者に対する感染症教育」「VR・AI融合型データサイエンス教育」「実験的なフィールド調査教育の手法教材」「Robustな科学実験教育システム」他

【反転授業】「広大名講義100選」「Hiroshima University's English Podcast」など、オンデマンド教材を継続的に開発

【通常授業】「英語教材」など、教育効果を高めるデジタル教材を継続的に開発

申請取組1) 学びを深める：デジタル教材の開発

オンラインを活用した障がいのある学生支援の充実と地方拠点の形成

- ・ 障害のある学生への特別支援教育指導者育成プログラムを展開

学習データの活用・分析とオンライン授業の深化

- ・ オンライン授業での評価方法を確立し、教育を改善
- ・ LMSの増強拡張や学習データ分析システムを完成し教育を改善

申請取組3) 学びを止めない：災害等に強い、サステナブルな学習環境の構築

その他の取組

- ・ 教育学習データの利活用の拡大
- ・ 就職支援活動システム構築
- ・ オンライン留学の充実
- ・ 5G通信環境等の整備

期待される効果や成果

VR教材を含む多様なデジタル教材を用いた授業方法の展開により、教育を高度化
・ 大学連携による開発と普及により デジタル教材を使った効率的かつ効果的な教育を展開

県内初等中等教育の支援

- ・ 開発したデジタル教材を使った県内初等中等学校教育の高度化

令和3年3月26日

消化器関連疾患への新たな治療シーズ開発を目指した
共同研究講座「医療イノベーション講座」を設置

大学院医系科学研究科に設置する本講座は、完治療法が確立していない疾患（特に消化器関連疾患）に対して多分野の知識、技術を融合し新規治療を開発することを目的とし、そのために、未解決の課題のある疾患の症例の臨床検体を収集し、広島大学、企業の最新の技術を導入し、新規治療のシーズ創出を目指します。

また、研究者が参画する医療法人に出向き、医療人の教育、リサーチマインドの涵養を行い、医療界にイノベーションをもたらすことを目的として活動を行います。

これらにより、新たな治療シーズが開発され、新規治療、経済の活性化につながることを期待されます。

<当該共同研究講座の概要>

1) 設置年月日 令和3年4月1日
(設置期間) (令和3年4月1日～令和6年3月31日)(3年間)

2) 外部機関

アボットジャパン合同会社
大日本住友製薬株式会社
株式会社フェニックスバイオ
特定医療法人 あかね会
医療法人社団 うすい会
医療法人 たかまさ会
医療法人社団 知仁会 他

3) 経費金額 総額 6,160万円

4) 担当教員及び職名 茶山 一彰 共同研究講座教授

【お問い合わせ先】

霞地区運営支援部総務グループ 三木
TEL: 082-257-5805
E-mail: kasumi-kenkyu@office.hiroshima-u.ac.jp

令和 3 年 3 月 26 日

大学病院に 3 つの寄附講座を設置

広島大学病院は令和 3 年 4 月 1 日付で 3 つの寄附講座を設置します。

1) 寄附講座「国際リンパ浮腫治療学講座」

整形外科をはじめ多くの診療科での診療を通じて、地域医療に貢献しているヒロシマ平松病院とともに本講座を設置します。

リンパ管吻合術をはじめ極小の血管やリンパ管を対象とした形成外科学的手術において世界的な第一人者の光嶋勲教授をセンター長とする国際リンパ浮腫治療センターを広島大学病院に平成 29 年に設立。以降、多くの患者治療を進めるとともに、国内外の医師等の指導を行ってきました。現在、連携して診療にあたっているヒロシマ平松病院と共に、治療はもとよりリンパ浮腫治療にかかる若手医師（医科診療医）も含めた雇用を行い、大学の使命の一つである人材育成にも大きく寄与していきます。

<当該寄附講座の概要>

- ・設置年月日 令和 3 年 4 月 1 日
(期間) (令和 3 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日)
- ・寄付者 医療法人社団まりも会
- ・寄付金額 総額 5,800 万円
- ・担当教員及び職名 光嶋 勲 寄付講座教授
盧 率智 寄付講座助教

2) 寄附講座「防府消化器病センター内視鏡外科講座」

がん死亡者における消化管がんの割合が増加する中、幅広い消化器疾患の診断と治療、早期発見・健康増進のための健診事業などを進めている防府消化器病センターとともに本講座を設置します。

広島大学病院消化器外科では、以前より、防府消化器病センターにおける消化器癌の手術支援や公益事業への支援を行って参りました。寄附講座の設置により本院消化器外科と同センターの連携を強化し、データベースの統合や先進手術手技の均霑化などを通じて、消化器疾患の治療、予防医学の実践、臨床研究を進めます。それにより地域における消化管疾患の内視鏡外科治療レベルの向上に寄与していきます。

<当該寄附講座の概要>

- ・設置年月日 令和 3 年 4 月 1 日
(期間) (令和 3 年 4 月 1 日～ 令和 5 年 3 月 31 日)
- ・寄付者 一般財団法人 防府消化器病センター
- ・寄付金額 総額 3,780 万円
- ・担当教員及び職名 奥田 浩 寄付講座准教授
佐伯 吉弘 寄付講座助教

3) 寄附講座「広島県北部地域周産期医療支援講座」

地域の急性期医療を担う中核病院として、また、二次救急医療指定病院としての役割の他、健診事業、健康教育にも力を注ぎ、赤十字の重要な使命の一つである災害救援においても貢献している庄原赤十字病院とともに本講座を設置します。

平成30年4月に13年ぶりに再開した同院の産科では、市をはじめ日赤グループ、近隣の医療機関との連携を図るなど中山間地域の周産期医療のモデルケースとして根付きつつあり、広島大学病院産科婦人科も積極的に協力しており、連携をさらに深めることにより、庄原市のみならず広島県北部地域における産婦人科領域の診療レベルの向上に寄与していきます。

<当該寄附講座の概要>

- ・設置年月日 令和3年4月1日
(期間) (令和3年4月1日～令和5年3月31日)
- ・寄付者 庄原赤十字病院
- ・寄付金額 総額 4600万円
- ・担当教員及び職名 寺本 秀樹 寄附講座教授
大森 由里子 寄附講座助教

【お問い合わせ先】

大学病院広報・調査担当役 古市 TEL: 082-257-5418

令和 3 年 3 月 26 日

認定遺伝カウンセラーの養成コースを
大学院医系科学研究科に設置します（2021 年 4 月）

2021 年 4 月、認定遺伝カウンセラーの養成コースを大学院医系科学研究科に設置します。

がんゲノム医療の進展により、遺伝カウンセリング体制の整備が求められる現状において、広島県内の認定遺伝カウンセラー数は 2 人（本学所属）のみであること、また、がんゲノム医療拠点病院の指定を受けた本学としても、認定遺伝カウンセラーの配置及びその人材育成が喫緊の課題となっています。

このような状況を踏まえ、2021 年 4 月、大学院医系科学研究科 博士課程前期 総合健康科学専攻に「遺伝カウンセラー養成コース」を設置します。

チーム医療を担う一員として、遺伝医学・遺伝医療に関する豊かな学識を持ち、十分な実習によって、カウンセリング・コミュニケーション技術、高い倫理観、患者の意思及び価値観の尊重、共有的意思決定に関する基本的態度を有する高度医療専門職としての遺伝カウンセリングを行うことができる人材を養成することを目的としています。

医系科学研究科と同一キャンパスにある大学病院の遺伝子診療科及び外部の関連病院等において、遺伝医療の経験豊富な臨床遺伝専門医・指導医や認定遺伝カウンセラーである教員が直接指導を行うことにより、認定遺伝カウンセラーの資格取得を目指します。

※ 認定遺伝カウンセラーは、日本遺伝カウンセリング学会と日本人類遺伝学会が共同認定する資格です。

現在、信州大学大学院、北里大学大学院、お茶の水女子大学大学院、京都大学大学院、千葉大学大学院、近畿大学大学院、川崎医療福祉大学大学院、東京女子医科大学大学院、長崎大学大学院、東北大学大学院、藤田医科大学大学院、札幌医科大学大学院、岩手医科大学大学院、新潟大学大学院、国際医療福祉大学大学院、大阪大学大学院、東京医科歯科大学大学院、金沢大学大学院、順天堂大学大学院、鳥取大学大学院の 20 大学院に認定遺伝カウンセラー認定養成課程が開設されています。

【お問い合わせ先】

大学病院 遺伝子診療科
特任教授 檜井 孝夫（ひのい たかお）
TEL：082-257-5965
E-mail：thinoid@hiroshima-u.ac.jp

広島大学大学院 医系科学研究科 博士前期課程 総合健康科学専攻
 遺伝カウンセラー養成コース（保健科学プログラムモデルケース） 学年進行表

科目区分	授業科目	1年次		2年次		単位
		前期	後期	前期	後期	
基盤的教育科目	Hiroshimaから世界平和を考える		○			1
	医療情報リテラシー		○			1
	研究方法論A	○				1
	多職種連携A	○				1
	予防医学・健康指導特論A	○				1
	スタートアップ生命科学コース	○				1
	生命・医療倫理学A	○				1
プログラム専門科目	専門共通科目		○			2
	専門科目Ⅰ	○				6
	専門科目Ⅱ	○				3
	専門科目Ⅱ		○			3
	(選択) バイオデザイン概論AⅠ	○				1
	(選択) バイオデザイン概論AⅡ		○			
	(選択) 医学統計パッケージ演習		○			
専門家養成科目	細胞科学	○				2
	人類遺伝学	○				2
	基礎人類遺伝学演習			○		1
	臨床遺伝学特論			○		1
	保健情報学演習			○		1
	遺伝サービス情報学演習		○			1
	社会医学		○			1
	遺伝医療と生命倫理学特論		○			1
	臨床心理学概論	○				1
	遺伝カウンセリング特論	○				1
	遺伝カウンセリング演習Ⅰ		○			1
	遺伝カウンセリング演習Ⅱ			○		1
	遺伝カウンセリング実習Ⅰ		○			2
	遺伝カウンセリング実習ⅡA			○		2
	遺伝カウンセリング実習ⅡB				○	2
特別研究	遺伝カウンセリング研究		○	○	○	8
合計		21	15	9	5	50

令和 3 年 3 月 26 日

**【2020 年度資料展示】広島大学 原医研の 60 年
所蔵資料から見る原爆放射線医科学研究所の歩み**

- 会 場** 広島大学医学部医学資料館（広島市南区）
- 期 間** 2021 年 3 月 26 日（金）～ 4 月 16 日（金）
[時間] 10:00～16:00 [休館] 医学資料館に準ずる
※初日の 3 月 26 日は、午後（13 時）からの開館とする。
- 開 催** 1) 主催：広島大学原爆放射線医科学研究所
2) 共催：放射線災害・医科学研究拠点
（広島大学・長崎大学・福島県立医科大学）
3) 協力：広島大学医学部

※来場方法： 新型コロナウイルス流行状況対応のため、事前に下記電話番号
にご連絡ください。
☎082-257-5877（資料調査解析部）入場無料

注意：新型コロナウイルス感染流行の状況による国・県・市の施策および広島大学の行
動指針等を遵守することを第一とし、そのうえでの開催を実行します。そのため、場合
により、上記の開催に関する事項は変更することがあります。

【企画主旨】

原爆放射線医科学研究所、通称「原医研」の前身である「原爆放射能医学研
究所」は、60 年前の 1961 年に設置されました。その更に前身の「原子放射
能基礎医学研究施設」は 1958 年に医学部附属の組織として出発しており、
これは、1954 年の第五福竜丸事件に象徴されるビキ二環礁水爆実験の問題を
きっかけとしています。

原爆投下の 1945 年から見ればだいぶ時間が経っている印象がありますが、
それは逆に、被爆者の医学的問題の長期化、晩発性の性格といった特徴や問題
解決の道のりの難しさと長さも示しているとも言えます。そういった被爆地・
広島での、医学研究の取り組みの機関の 1 つとして、原医研は設立されまし
た。

また、原医研は、日本にある他の医学研究所とは少し異なり、当初より「社
会医学」研究分野を置き、社会学的な視点も重要としていました。つまり、単
に科学研究のみを推進するのではなく、広島の子の社会の皆さんとともに歩もうと
する取り組みも見られました。

今回の展示では、普段あまり皆様にご覧いただくことのない所蔵資料を展示し、原爆被爆に関するこれまでの主な研究や、科学研究所としての社会における取組の一端をご紹介します。

【お問い合わせ先】

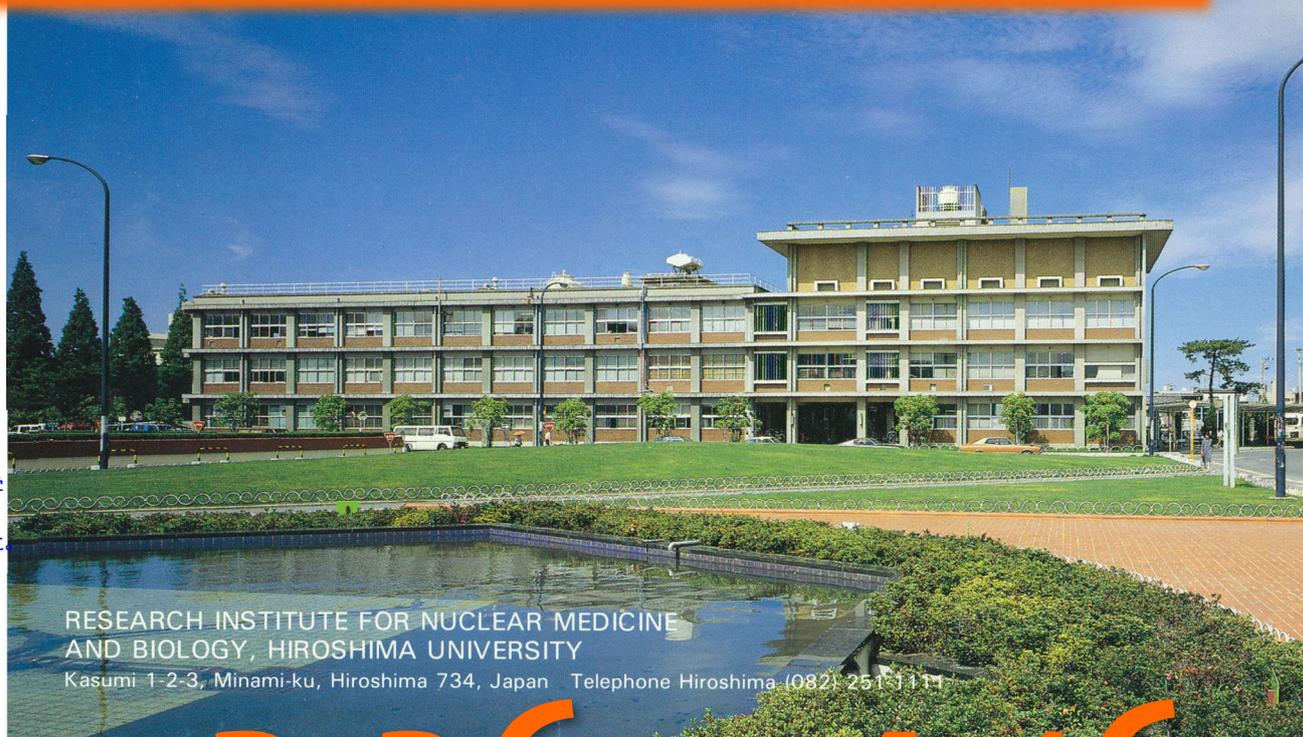
原爆放射線医科学研究所
附属被ばく資料調査解析部（担当：久保田明子）
TEL:082-257-5877

広島大学

原医研の60年

所蔵資料から見る原爆放射線医科学研究所の歩み

在りし日の原医研
(1989年)
以前は、現在の大学
病院、YHRPミュージ
アムの近くにありました



RESEARCH INSTITUTE FOR NUCLEAR MEDICINE
AND BIOLOGY, HIROSHIMA UNIVERSITY
Kasumi 1-2-3, Minami-ku, Hiroshima 734, Japan Telephone Hiroshima (082) 251-1111

【期間】 2021年

3月26日(金) ~ 4月16日(金)

10:00~16:00 (土曜日・日曜日・祝日閉館)

初日3/26のみ13:00~16:00

入場無料

【会場】

広島大学医学部
医学資料館

広島大学霞キャンパス (大学病院前)

主催 広島大学原爆放射線医科学研究所

共催 放射線災害・医科学研究拠点
(広島大学・長崎大学・福島県立医科大学)

協力 広島大学医学部

企画・製作

広島大学原爆放射線医科学研究所
附属被ばく資料調査解析部

【ご注意】新型コロナウイルスの流行状況等により、中止、延期、開催方式の変更等がある場合もございます。あらかじめご了承ください。

【来場方法】新型コロナウイルス流行状況対応のため、お手数ですが、事前に右記電話番号にご連絡ください。

事前予約 ☎082-257-5877 解析部事務

2021 年 3 月 10 日

広島大学 原爆放射線医科学研究所

附属被ばく資料調査解析部

広島大学原爆放射線医科学研究所附属被ばく資料調査解析部 2020 年度 資料展示 企画書

下記の通り、2020 年度の資料展示企画を提案いたします。

記

注意：新型コロナウイルス感染流行の状況による国・県・市の施策および広島大学の行動指針等を遵守することを第一とし、そのうえでの開催を実行するものとする。そのため、場合により、下記の開催に関する事項は変更することがある。

1. タイトル **広島大学 原医研の60 年**：所蔵資料から見る原爆放射線医科学研究所の歩み

2. 場所 広島大学医学部医学資料館（広島市南区）

3. 期間 2021 年 3 月 26 日（金）～4 月 16 日（金）
[時間] 10：00～16：00 [休館] 医学資料館に準ずる
※初日の 3 月 26 日は、午後（13 時）からの開館とする。

4. 開催 1) 主催：広島大学原爆放射線医科学研究所
 2) 共催：放射線災害・医科学研究拠点
 （広島大学・長崎大学・福島県立医科大学）
 3) 協力：広島大学医学部

5. スケジュール概要 [2021 年 3 月前半] 広報活動開始／展示設計確定／資料選定
 [2021 年 3 月後半] 広報活動重点化／展示準備
 [2021 年 3 月 26 日] 展示開始／随時広報活動
 [2021 年 4 月 16 日] 展示終了…片付け

7. 企画趣旨

原爆放射線医科学研究所、通称「原医研」の前身である「原爆放射能医学研究所」は、60 年前の 1961 年に設置された。そのまた前身の「原子放射能基礎医学研究施設」は 1958 年に医学部附属の組織として出発しており、これは、1954 年の第五福竜丸事件に象徴されるビキニ環礁水爆実験の問題をきっかけとしている。原爆投下の 1945 年から見ればだいぶ時間が経っている印象があるが、それは逆に、被爆者の医学的問題の

長期化、晩発性の性格といった特徴や問題解決の道のりの難しさと長さも示しているとも言えよう。そういった被爆地・広島での、医学研究の取り組みの機関の1つとして、原医研は設立された。

また、原医研は、日本にある他の医学研究所とは少し異なり、当初より「社会医学」研究分野を置き、社会的な視点も重要としていた。つまり、単に科学研究のみを推進するのではなく、広島の社会の皆さんとともに歩もうとする取り組みも見られた。今回の展示では、普段あまり皆様にご覧いただくことのない所蔵資料を展示し、原爆被爆に関するこれまでの主な研究や、科学研究所としての社会における取組の一端をご紹介します。

8. 展示構成案（2021年3月10日現在）

構成	主な展示資料
1. 「原医研」の設立 資料展示	
1-1. 原爆と広島大学医学部 1-2. 「被爆地・広島に放射線医学の研究所を！」 ：医学部附属原子放射能基礎医学研究施設 1-3. 原爆放射能医学研究所の設立	* 医学部および広島市（原対協、後障害研究会など）の取り組みも併せて紹介 ・原医研設立時期の文書、刊行物等
2. 爆心地復元運動と原医研【初期（1960年代）の原医研の研究活動】 資料展示 初出あり	
2-1. 復元運動について 2-2. 復元運動に取り組む原医研 2-3. 社会学的調査から被爆者の医学研究へ	・復元運動関係の資料 ・湯崎資料 ・鎌田資料
3. AFIP 返還資料と原医研【1970年代以降の原医研の研究活動】 資料展示 初出あり	
3-1. 接收された医学資料 3-2. 広島ものは広島へ：原医研を受け取った原医研 3-3. 日映が撮影した映画について	・AFIP 返還資料：カルテ（レプリカ） ・AFIP 返還資料：写真 ・AFIP 返還資料：フィルム
4. 原爆被災資料と原医研【原医研の資料収集事業】 資料展示 初出あり	
4-1. 原爆の記録を守って記憶を伝える（1）被爆者の思い 4-2. 原爆の記録を守って記憶を伝える（2）研究の記録 4-3. 原爆の記録を守って記憶を伝える（3）寄せられる資料	・手記・証言等：解析部所蔵希少資料 ・志水資料、物理試料 ・京大資料
5. 原医研の今 パネル展示 資料展示	
5-1. 現在の研究 5-2. これからに向けて	* 拠点事業等の紹介 * 各研究分野の紹介

[担当]

広島大学 原爆放射線医科学研究所

附属被ばく資料調査解析部

助教 久保田明子

kubota07@hiroshima-u.ac.jp

082-257-5936

以上

令和 3 年 3 月 26 日

広島大学「平和研究イニシアティブ」
第 1 回「広島大学 人社系センター合同セミナー」
(オンライン) を開催します

「平和研究イニシアティブ」は、広島大学を起点とした「平和」に関連する研究を集積、喚起し、関連付け、創造していく活動です。

取り組みの第 1 回目として、ダイバーシティ研究センター、平和センター、教育ビジョン研究センター及び応用倫理学プロジェクト研究センターの 4 つのセンターが、最近の取り組みを紹介し、これから広島大学の平和研究・活動にどう取り組んでいくかを話し合います。

日 時：令和 3 年 3 月 27 日（土）13 時～16 時（オンライン）

内 容：13 時～14 時 30 分

4 センターの最近の取り組みの紹介

14 時 30 分～15 時 30 分

4 センター長と大芝所長によるシンポジウム（ヒロシマの平和に
どう取り組むかについて）

15 時 30 分～16 時

フロアとの質疑応答

登壇者：大池真知子（広島大学 ダイバーシティ研究センター長）

川野 徳幸（広島大学 平和センター長）

草原 和博（広島大学 教育ビジョン研究センター長）

後藤 弘志（広島大学 応用倫理学プロジェクト研究センター長）

コメンテーター：

大芝 亮（広島市立大学 広島平和研究所所長）

申し込み：<https://bit.ly/3sKihDp>

【お問い合わせ先】

副理事（研究企画担当）

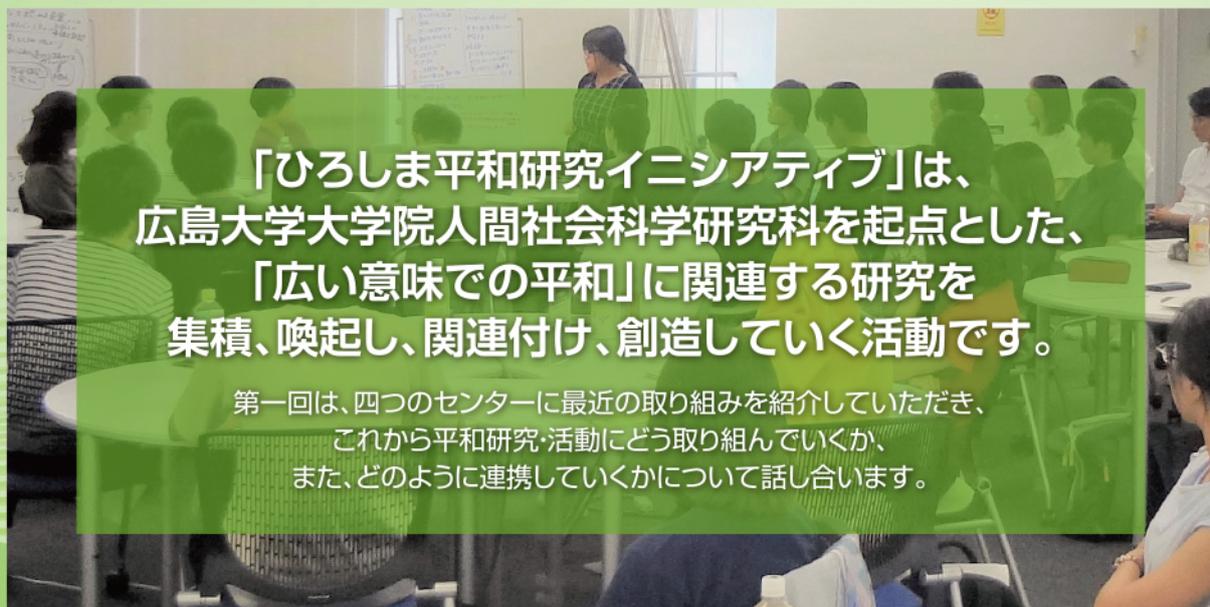
難波博孝

E-mail：hnanba@hiroshima-u.ac.jp

広島大学

人権系センター合同セミナー

～各センターは何をしているのか、平和研究・活動にどう関わっているか～



「ひろしま平和研究イニシアティブ」は、
広島大学大学院人間社会科学研究科を起点とした、
「広い意味での平和」に関連する研究を
集積、喚起し、関連付け、創造していく活動です。

第一回は、四つのセンターに最近の取り組みを紹介していただき、
これから平和研究・活動にどう取り組んでいくか、
また、どのように連携していくかについて話し合います。

内容

13:00～14:30

4センターの最近の取り組みの紹介

14:30～15:30

4センター長と大芝先生によるシンポジウム
(ヒロシマの平和にどう取り組むかについて)

15:30～16:00

フロアとの質疑応答

コメン テーター

広島市立大学
広島平和研究所所長

大芝 亮



登壇者

広島大学
ダイバーシティ
研究センター



広島大学ダイバーシティ
研究センター長

大池 真知子

広島大学
平和センター



広島大学
平和センター長

川野 徳幸

広島大学
教育ビジョン
研究センター



広島大学教育ビジョン
研究センター長

草原 和博

広島大学
応用倫理学
プロジェクト
研究センター



広島大学応用倫理学プロ
ジェクト研究センター長

後藤 弘志

2021年

3月27日(土) 13:00～16:00

オンライン開催

参加無料

お申し込み

こちらのURLかQRコードで事前にお申し込みをお願いします。▶

<https://bit.ly/3sKihDp>



「平和の研究、活動」を続ける広島大学の四つのセンターをご紹介します

▶ 2016年設立。他大学の「ダイバーシティ推進室」が行政組織であるのに対し、本センターは研究組織。学内外の多様な関係者と連携して、研究、教育、社会活動を実施しています。テーマはジェンダー平等、性の多様性尊重、多文化共生、障がいや病いのある人の包摂、資源の公正な使用など、多岐にわたります。とくに企業でのダイバーシティ調査に実績があります。2021年度は自治体でのジェンダー調査、東広島での多文化共生のワークショップ、広島での平和のワークショップなどを予定しています。



大池 真知子 おおいけ まちこ (広島大学ダイバーシティ研究センター長)

専門はアフリカの文学とジェンダー。主著「エイズと文学—アフリカの女たちが書く性、愛、死」(2013年世界思想社)。お茶の水女子大学大学院博士課程修了。博士(人文科学)。1999年広島大学総合科学部講師。2017年総合科学研究科からダイバーシティ研究センターに異動。2018年センター長。

広島大学 ダイバーシティ 研究センター

▶ 広島大学平和センターは、広島大学の全学的施設として平和学に関する研究・調査と資料の収集を行うことを目的として、1975年7月8日学内措置により平和科学研究センターとして発足しました。平和学の学術的研究機関としては我が国最初のものであり、国立大学では現在なお唯一の研究機関です。2018年4月1日より機能強化が図られ「平和センター」と改称しました。平和学に関する研究・調査及び資料の収集を行うとともに、研究成果を教育の場に還元して平和に関する教育を推進しています。



川野 徳幸 かわの のりゆき (広島大学平和センター長)

広島大学平和センター センター長/教授
広島大学大学院医歯薬学総合研究科博士課程修了 博士(医学)。
広島大学原爆放射線医学研究所附属国際放射線情報センター助手・助教、広島大学平和科学研究センター准教授等を経て、2013年6月から広島大学平和科学研究センター教授。2017年4月より同センター長併任。専門は原爆・被ばく研究、平和学。広島・長崎原爆被害、セミパラチンスク、チェルノブイリの核被害について社会医学的視点から調査研究を行っている。

広島大学 平和センター

草原 和博 くさはら かずひろ (広島大学教育ビジョン研究センター長)

兵庫教育大学助手、鳴門教育大学講師・助教授・准教授を経て、2009年より広島大学大学院准教授。2014年より教授。専門は教科教育学、社会科教育学。世界の教育言説やカリキュラムを比較考察し、民主主義社会における主権者育成の原理と社会科教育の成立根拠を究明してきた。最近では、教師の意思決定メカニズム、概念ベース及びプロジェクトベースの授業デザインならびに教師の養成・研修の研究にも取り組んでいる。2017年より教育ビジョン研究センター(EVRI)の拠点リーダー、センター長。



広島大学 教育ビジョン 研究センター

後藤 弘志 ごとう ひろし (広島大学応用倫理学プロジェクト研究センター長)

専門は現代ドイツ哲学(主にフッサール現象学)、人格概念、徳倫理学。主著「フッサール現象学の倫理学的解釈」(ナカニシヤ出版、2011)。
広島大学大学院文学研究科博士課程後期単位取得退学。Dr. Phil. (ドイツ・トリア大学)。
広島大学大学院文学研究科教授(2010)、広島大学大学院人間社会科学研究科教授(2020)、2018年より広島大学応用倫理学プロジェクト研究センター長。

広島大学 応用倫理学 プロジェクト 研究センター

▶ EVRIは、(1)教育学・教科教育学・心理学とその隣接領域を横断する教育・社会貢献活動、そして国際交流を支える「人間社会科学研究科の附属教育研究施設」としての活動と、(2)教育デザインに関する研究・開発を推進し、平和・市民性教育、教師教育・授業研究、STEAM・IB教育、Inclusive・日本語教育、の研究を戦略的に進める大学全体の「インキュベーション研究拠点」としての活動、これら2つの活動を担っています。

▶ 広島大学応用倫理学プロジェクト研究センターの目的は、生命・環境・医療・情報・平和など、現代社会において緊急かつ重要な諸問題にスポットを当て、哲学・倫理学の観点から根源的に検討し、問題解決の方向を探ることにある。本センターはこれらの問題と取り組む国内外の研究者と年2回の研究会を開催し、その成果を研究誌「ぶらすしす」(1998年から現在までに通巻第21号まで刊行)に取りまとめている。

コメンテーター

大芝 亮 おおしば りょう (広島市立大学広島平和研究所長)

米国イェール大学政治学博士課程修了。上智大学法学部助教授、一橋大学法学部助教授、オクスフォード大学・プリンストン大学客員研究員、一橋大学法学部・法学研究科教授、国立民族学博物館地域企画交流センター客員教授、国際日本文化研究センター共同研究員、一橋大学評議員、一橋大学国際・公共政策大学院院長、一橋大学法学研究科・法学部法学研究科長・法学部長、一橋大学理事・副学長、青山学院大学国際政治経済学教授、青山学院大学国際センターセンター長を経て、2019年より広島市立大学広島平和研究所教授、広島市立大学広島平和研究所所長。国連、世界銀行、ユネスコの三つの機関について、国際政治における非国家的アクターの役割と課題の視点から分析。グローバル・ガバナンスの概念について、現実主義の国際政治理論の視点を取り入れることにより、どのように修正・発展させることができるかを研究。

広島市立大学広島平和研究所

広島平和研究所は、公立大学法人広島市立大学の附属研究機関として、1998年4月に設置されました。被爆地・広島における学術研究機関として、これらの課題の分析・考察に取り組み、国際平和文化都市・広島の「知」の拠点としての役割を担います。これまでの成果・取り組みを学問として体系化していくことにあると考え、被爆体験に基づく「広島・日本発の平和学」を作ることを目指します。そして、さまざまな機関や人々と連携して、市民、そして世界への情報発信を展開します。2019年度に立ち上げた大学院・平和学研究科において、平和の創造に貢献する人材育成に引き続き取り組んでいきます。教育への参画を通じて、研究所のメンバーもまた学んでいきます。



「平和研究イニシアティブ」は活動目的を達成するべく、今後も継続していきます。次回は、2021年夏頃開催します。



令和 3 年 3 月 26 日

広島大学体育会 45 団体の特徴を反映した
マスコットキャラクター「ひろティー」の
バリエーションデザインを制作しました

広島大学のブランドイメージの向上と、学生・教職員の連帯感の醸成、そして卒業生、受験生、企業・地域の方など、学内外を問わず親しまれる大学となることを目指し、2020 年 3 月、広島大学初となるマスコットキャラクター「ひろティー」が誕生しました。

この度、本学の体育会に所属する 45 団体の特徴を反映したマスコットキャラクター「ひろティー」のバリエーションデザインを制作しました。

新たなバリエーションデザインを通じて、体育会 45 団体が行う各種スポーツの魅力を発信していき、学内外を問わず、本学への愛着と親しみを感じてもらうことで、本学のブランドイメージを向上したいと考えています。

また、新たなバリエーションデザインは、今後、体育会が行う各種事業やイベント等で活用し、効果的な PR 活動を行っていきます。

【お問い合わせ先】

スポーツセンター

村上 直希

TEL:082-424-6143 FAX:082-424-6159

MAIL: sports@office.hiroshima-u.ac.jp

【イラスト資料】

